

2022年3月期第1四半期 決算説明会 質疑応答

質問者①：

第1四半期の Staffing SBU の BPO 領域が約 20%の伸びについてスポット案件と継続案件の内訳はどうなりますか？また、Staffing SBU の粗利率はどうだったのでしょうか？

CFO 関：

BPO 領域の増加分の中では、2/3 程度がスポット案件と見ております。

また、事務派遣領域は、スタッフの有給休暇取得が増加したこともあり、当第1四半期の粗利率は前年同期よりも低下しましたが、粗利率の高い BPO 領域が非常に好調であったことから、Staffing SBU 全体の粗利率はほぼフラットでした。

質問者①：

第2四半期の業績予想の考え方を教えてください。

CFO 関：

Staffing については、第2四半期は第1四半期よりも稼働日が3日減少となることと、夏休みの影響などの季節要因があります。Career についても、第2四半期は4月入社からの採用活動が一旦落ち着く時期だとみています。また、一部 SBU における将来に向けた投資もあり、第2四半期は第1四半期と比べて増収減益を見込んでいます。

質問者①：

Career については、決算発表スライドの8ページに内定決定者は前年同期比 1.3 倍と記載されていますので、第2四半期にかけて利益が増加するものと考えておりましたが、第2四半期の営業利益が第1四半期よりも減益になるのは、戦略的な費用の増加を見込んでいるからでしょうか？

CFO 関：

市場の追い風を受けているビジネス環境であることから、戦略的投資を行う必要があるため、現在の第2四半期の業績予想となっております。

質問者②：

海外事業は、安定的に黒字を出せる状態になったと理解してよろしいでしょうか？

CFO 関：

Asia Pacific SBU のビジネス全体としては、コスト削減や業務の効率化等により継続的に利益を出し得る体制に改革できつつあります。

質問者②：

今回、上期の営業利益予想を上方修正されている中で、Staffing が約 44 億円上方修正されている要因を教えてください。

CFO 関：

主要因として、先ず 1 点目は BPO 領域の公共案件について、当初の見立て以上に好調に推移していること。さらに、主力である人材派遣事業において稼働者数が当初の想定以上に堅調に推移をしているなどによります。

質問者③：

通期業績予想を今回、未定とされていますが、下期について留意すべきポイントはありますか？

CFO 関：

下期の事業運営上の大きなリスク要素はそれほどないと考えています。複数の SBU において、中計達成に向けて下期は色々な事業投資が必要と考えおり、下期利益の変動要因と考えております。COVID-19 の感染状況の影響度合い等を見極めるために、通期業績予想を未定としましたが、全体として回復傾向にあると考えています。

質問者④：

第 2 四半期に該当する 7-9 月は、COVID-19 感染拡大が懸念されていますが、売上高は第 1 四半期と同等レベルを予想されているのは、感染拡大の影響は限定的と見られているからでしょうか？

CFO 関：

上期業績予想の数値からも、COVID-19 の与える影響は限定的と見ており、過度なリスクはないと考えております。

以上